

～ 昨日の風 明日の風 ～  
**経営コンサルタント  
 独白録**

[第138回] 歴史に学べ！



戸敷 進一

1956年生まれ、宮崎県出身の経営コンサルタントで、㈱経営改善支援センター（福岡市、URL: <https://sien.co.jp/>）代表取締役。業種を問わない「組織活性化」の専門家で、全国300社以上の企業の活性化を指導。全国の商工会議所や企業などからの依頼で講演活動もおこなう。明確で分かりやすい表現で驚くほど短期間で「組織」を変えるのが強み。また、帝国データバンクの契約コンサルタントとして九州各地の企業を中心に多くの実績を上げている。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」

とは、ドイツ統一を果たしたオットー・フォン・ビスマルク首相の言葉です。日本でいえば明治維新の頃、プロイセン王国首相兼外相を経てドイツをまとめあげた人物です。「現下の大きな問題は言論や多数によってではなく、鉄と血によってのみ解決される」という有名な演説から【鉄血宰相】と呼ばれます。ナポレオン以後、イギリス・フランス・イタリア・オーストリアなど列強ひしめくヨーロッパにおいて巧みな外交力によって建国の礎を築きました。

**半径5mの風景**

日常生活はとかく忙しいものです。朝起きてから学校や職場に通い、気ぜわしい思いをしながら1日を過ごします。その時に目に入るものは、身近なものです。その日の天気、為替相場の動き、政治家の頼りない言葉、仲間内のたわいのない会話、有名人のゴシップ、様々な新商品の情報…。最近ではネット環境が整っているため、ますます自分の身の回りに起きていることだけしか見えないことがあります。

そうになると、先を見通す力が衰え、せいぜい1週間先、1ヵ月先位までしか物事を考えられなくなります。人生の長さを80年とすれば、個人や組織の将来を長いスパンで考えなければならないのですが、慌ただしさに紛れそれをおろそかにしてしまいます。「愚者は経験に学び」とはそうした短絡的な傾向を指しています。

**視点の高さ**

もし長いスパンで、物事を考えようとするならば、視点を上げる必要があります。今立っている場所からは周囲5mしか見えないかもしれませんが、梯子を登り、一段ずつ高い場所に視点を置けば遠くの世界が見えてきます。その高い視点を与える梯子こそ「賢者は歴史に学ぶ」ということです。高い視点から100年前の風景（歴史）を知ることにより100年後の世界を想像することがで

きるのです。

若い世代の人たちと話していて、江戸時代位までは答えられるのだけれど、その前の歴史について理解している人たちは極端に少ないように思います。戦国時代が約100年続き、それが室町時代であり、その前が鎌倉時代、その前に390年ほど続いた平安時代を知らず、奈良・古墳・弥生・縄文・新石器時代を知らない。約4万年続いたと言われる日本列島の歴史を知る事は決して無駄なことではありません。

「キングダム」や「三国志」などのアニメは知っていても、殷・周・秦・漢・三国・随・唐・宗・元・明・清という中国の歴史は知らない。アメリカがどのように建国したのか、古代ギリシャがなぜ滅び、ローマ帝国がなぜ滅んだのか、なぜルネッサンスが起こったのか、スペイン・オランダ・イギリスという帝国はどのように勃興しその地位を失ったのかなどは意識して歴史を学ばなければ知ることができません。

**「社歴」も教えていない**

企業理念を組織に所属する人たちに伝えようとする時、社歴はとても重要です。創業者がどのような思いでその企業を起こしたのか？その時代にどのようなニーズがあったのか？時代背景や創業時の人々の思いはどのようなものであったのか？そうしたことをきちんと伝えずに「借りてきた企業理念」を何回唱えても、新しく入った人たちは理解しないのではないかと考えます。

給料の金額と年間休日日数と福利厚生だけで人が集まっているわけではありません。そこで働いている人たちの価値観や組織風土によって人は定着します。

「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」とは真理でもあります。日常の繰り返しの中から学べる事はごくわずかなものに過ぎません。どのように組織や人を育て、企業の存続を図るか？激動の2025年を迎えて一度心を傾けておくべきことかもしれません。